

# 乳がん一回×モ92 かしま乳腺疾患チームの紹介

**か** しま乳腺疾患チームは多職種で構成されています。お互いの業務を知ることによって個々のスキルアップや円滑な情報共有を目指し、そしてなにより、同じ気持ちで患者さまに接することができればと活動しております。今回はそれぞれの部署をひと言紹介させていただきます。

## ■ 看護部

私たちは、患者さんとそのご家族が自分らしい生活をしつつ、心身ともにベスト・ベターな状況で治療を継続できるように心がけています。病棟・外来の連携を図り安心して医療を受けられるよう支援させていただきます。

## ■ 健診センター

私たちは、乳がんの早期発見のため乳房自己検診の啓蒙に力を入れています。自分の乳房に関心を持ち、自己検診を習慣づけていきましょう。(厚生労働省の指針に従い、視触診が省略される傾向となっています。)

## ■ 薬剤部

薬剤部では入院患者さんの内服薬の調剤、注射薬の調製、服薬指導を行っています。また、外来でお薬による治療を受ける患者さんの服薬相談、副作用に対するアドバイス、薬剤部所属の管理栄養士による食事相談も行います。薬剤師、管理栄養士に遠慮なくお声がけください。

## ■ リハビリテーション部

リハビリテーション部では、術後の生活動作指導と、リンパ浮腫に対する予防・手技・アドバイス等を行っています。リンパ浮腫は早期発見と予防が重要と言われています。当院では女性スタッフが対応しますので、気軽にご相談ください。

## ■ 放射線画像診断科

放射線画像診断科では、マンモグラフィ、CT、MRIなどの検査を行い、病気の早期発見や治療方針の決定に役立つ画像を提供しています。マンモグラフィは女性技師が担当しておりますので、検査内容や気になる症状などがありましたら、お気軽にご相談ください。

## ■ 臨床検査科(生理機能)

乳房超音波検査は、乳房に超音波を当て、組織を画像化し、乳房内部の腫瘍やう胞の有無、乳管の変化などを調べる検査です。痛みや人体への影響が少なく、妊娠中や授乳中の方でも検査が可能です。

## ■ 臨床検査科(病理)

乳がんの性質は患者さんによって異なります。病理検査室では組織や細胞の良悪性の診断だけでなく、再発しやすいかどうか、薬が効きやすいがんなのか、どんなタイプの薬が効きやすいのかなど、治療方針を決めるために重要な検査も行っています。

かしま乳腺疾患チーム一同

## 嫉が大切か 嫉け方が大切か

愛知県岡崎市の幼稚園で職員が園児の手足を粘着テープで縛ったり口をふさいだりしていたことが発覚しました。テレビや新聞により、愛知県は園に対し「不適切な行為」として指導し、園の理事長も「職員による虐待行為」であったとして、被害を受けた保護者に謝罪しました。

患生の孫娘も岡崎市の幼稚園に通っていますので他人事ではありません。新聞の取材に対し、園長は「子どもには本当に申しわけないことをした」と語ったそうです。

この事後処理を見ていて患生は悲しく、絶望的になりました。もともと原因は、縛られた男児が他の園児を叩いたり蹴ったりすることが常態化していたことだそうです。

幼稚園も学校と同じく教育機関です。日本の幼児教育は何を目指しているのだろうか、疑問を抱かざるを得ません。いや、そうではなく、謝罪させられた教育者はちゃんとした信念があったのだと思います。正義漢ぶったマスコミが真っ当な教育者を袋叩きにし、所轄官庁もあるべき教育理念を鑑みることなくマスコミに迎合し、教育者を守るのではなく犯罪者として切り離しました。

マスコミは幼児教育に何を期待しているのでしょうか。もう少し真剣に考えてゆかないと教育は崩壊します。

ここには二つの事件があります。第一は、男児が他の園児を叩いたり蹴ったりしたこと。第二は、他の園児を問題の男児の暴力から守るために職員が男児を縛った

ことです。

幼児教育で問題にすべきことは第一の件です。男児を諭すか、懲罰を与えるか、暴力を振るえないように抑圧するか、集団から離すか、対策はいろいろありますが、実効を伴うまで対応がエスカレートするのはやむを得ません。子どもは大人をよく見ています。どこまでのお仕置きがあるのか見えています。話せば解る、などというのは幻想です。大人だって話したって分かり合えないのですから。

患生の時代はお灸を据えられました。事情を知った保護者は、わが子にお灸を据え、暴力の被害にあった園児たちに謝罪に行くのが常識でした。その常識をマスコミが強調しないと、教育の方向性が迷走します。

第二の件は、教育者内部での教育方法における是非の問題です。理事長が職員により適切な対応法を指導するのが解決法です。第一の件が解決し暴力を振るった男児が改心し、他の子どもたちに謝罪し、もはや暴力を振るわなくなった後に初めて第二の件の対応が問題になります。

今回の事件の一連の流れの中で、ほかの園児を叩いたり蹴ったりした男児がその保護者に叱責されたとか、保護者がほかの園児やその保護者に謝ったなどという話が伝わって来ません。これでは片手落ちです。現代では、第二の事件がおこりますと、

第一の事件の加害者が被害者に変化し、もはや第一の事件の加害者であったことなどは忘れ去られます。これでは、根本問題は解決しません。

マスコミには、報道の優先順位を分かってもらいたいものです。

(呼吸器科 部長 山根喜男)

